

－ 持続可能な農業と県北地域における農業の振興に向けて－

令和3年度 県北地域有機農業拠点ほ場技術検討会をWEB開催しました

県北地域においては、少子・高齢化や人口減少等の課題を背景に、農業分野においても、後継者不足等により農業の衰退が懸念されていることから、付加価値を高めた農産物生産による農業の振興を図るために、有機農業の取組を関係機関が連携して推進しています。その一環として、茨城県県北農林事務所では、このたび、「県北地域有機農業拠点ほ場技術検討会」を（新型コロナウイルスのまん延状況等を考慮し、WEBで）開催しました。

具体的には、今後における取組の拡大を図るために、現在、常陸大宮市内で有機農業を行っている（株）レインボーフューチャーの大和田氏と、コトコトファームの古東氏を講師として、大手スーパー等に出荷している取組事例や、「野菜ボックス」による個人向けの販売等を展開している取組事例について、実際に、苦労したことや、工夫していること等も含め、お話いただきました。また、現在、常陸大宮市（三美地区）において、県の「いばらきオーガニックステップアップ事業」等により、有機農業のモデル団地が形成されてきているところですが、県の農業研究所からは土壌分析結果について、改善が進んでいる等の説明がありました。さらに、常陸大宮市から、これまで1年近く検討してきた（県内市町村で初となる）「有機農業推進計画」が先日（3月11日）、計画決定されたことから、その内容の説明がありました。県北農林事務所では、今後とも、引き続き、関係機関等と連携して、県北地域における有機農業の取組の推進を図ってまいります。

- ◇ 日 時 令和4年3月16日（水）13時30分～
- ◇ 内 容
 - (1) 講演「サラリーマンからの転身 有機農業者として独立に必要な5つの要素」
（株）レインボーフューチャー 代表取締役 大和田 忠 氏
 - (2) 講演「緑肥の利用と草管理について」
（コトコトファーム 古東 篤 氏）
 - (3) 県北地域有機農業拠点ほ場土壌分析結果について
（県農業総合センター 農業研究所 環境・土壌研究室 小野 仁美 技師）
 - (4) 常陸大宮市「有機農業推進計画」について
（常陸大宮市 産業観光部 農林振興課 猿田 光良 主査）
- ◇ 参加者 有機農業実践者、有機農業に興味のある農業者、農業関係団体など（約60名）
- ◇ 主 催 茨城県 県北農林事務所 企画調整部門 振興・環境室
（共催） 常陸大宮市 産業観光部 農林振興課



大和田氏（WEB講演） 古東氏（WEB講演）

- 大和田氏：筑西市内の約30ha、常陸大宮市内の約5haのほ場で、年間約50品目以上の有機野菜を大手スーパー等に出荷。令和元年度に、常陸大宮市三美地区に参入、現在、ニンジン、ベビーリーフ、ハウレンソウを栽培
- 古東氏：常陸大宮市内の約2haのほ場で、化学肥料や農薬を使用しないで、少量多品目（年間約40品目）を栽培し、個人へ宅配を中心に販売。平成23年に、新規参入により常陸大宮市に移り住み取組定着

【参考】 ー講演における主な質疑応答ー

- ① 有機肥料で、連作障害をおさえることができるのか？
（大和田氏からの回答）輪作することで、ミネラルバランスが保てる。土のバランスを良くすれば、連作障害を防げる。
- ② 肥料としての緑肥の効果は、どのくらいあるのか？
（古東氏からの回答）緑肥には、実際には、あまり肥料効果は期待していない。むしろ、土壌微生物のエサとなって、土壌のバランスが保てるという効果に期待している。また、雑草の抑制にも役立っている。